

2021年3月期 決算説明会

住

Infrastructure

2021年5月11日
株式会社トプコン
代表取締役社長 平野 聡

医

Healthcare

食

Agriculture



会社紹介
ビデオ

2021年3月期 決算説明会

I. 2021年3月期 決算報告

II. 2022年3月期 通期見通し

III. トピックス

IV. まとめ

V. 参考資料

I . 2021年3月期 決算報告

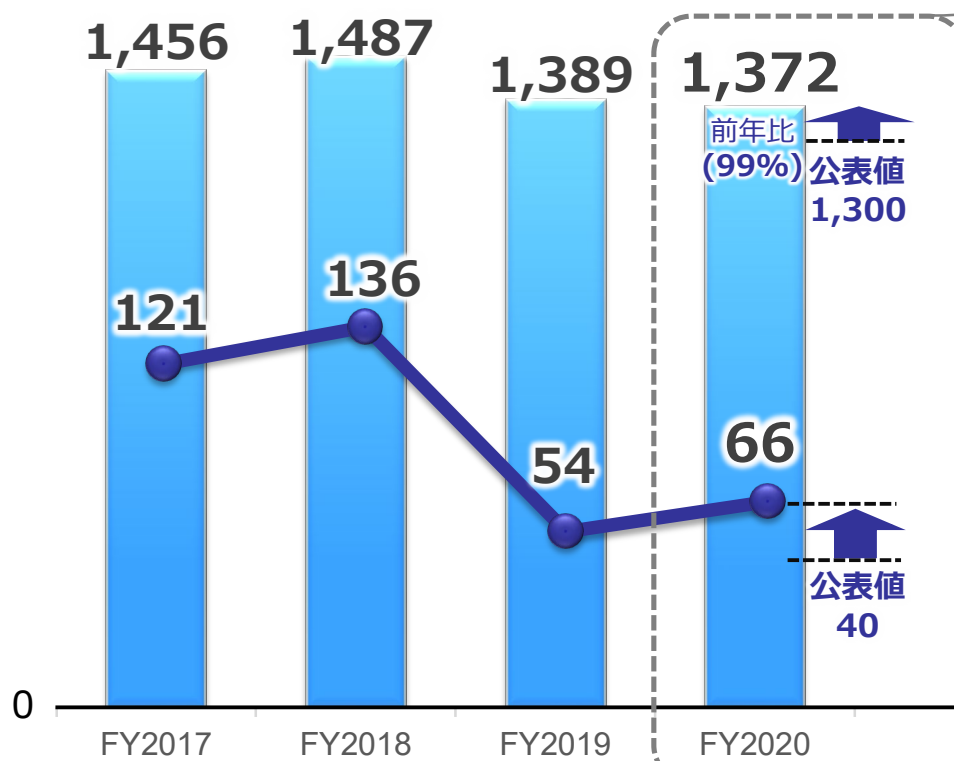
I-1. 2021年3月期 決算報告

I-2. 事業別の状況

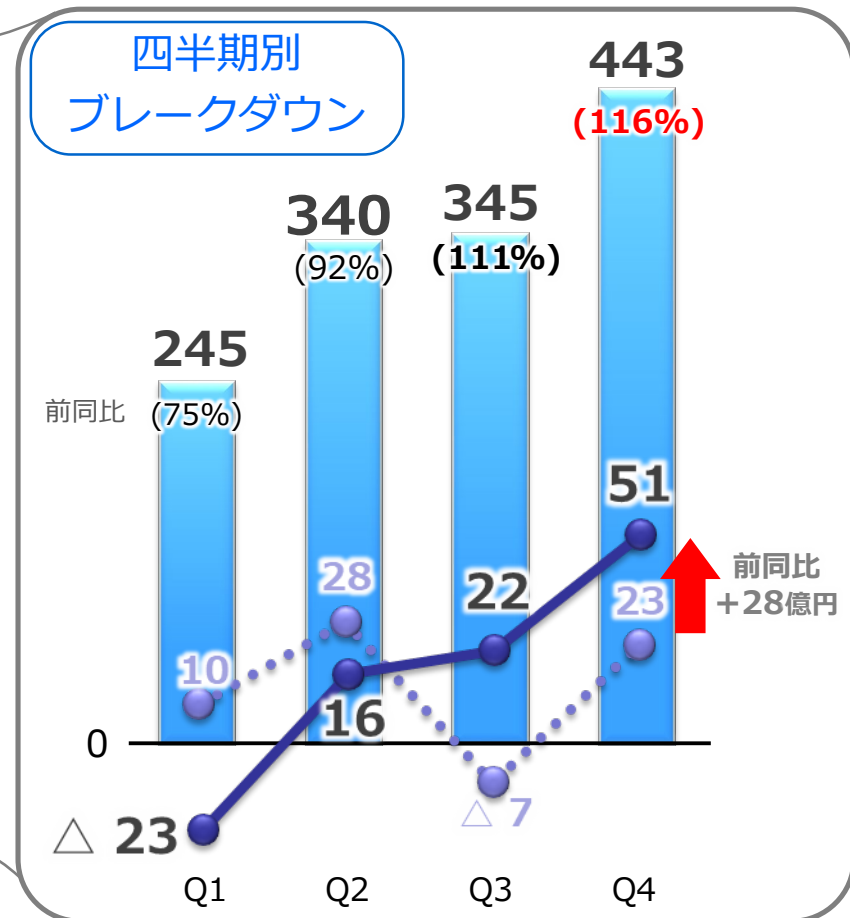
FY2020 決算概要

未曾有のコロナ禍に直面しても

- **増益、公表値達成** エssenシャルビジネスの強みを証明
- Q1をボトムにQ2で黒字化、Q3以降**回復の勢い加速**



(単位：億円) 売上高 営業利益 前年営業利益



未曾有のコロナ禍に直面しても

■ 財務基盤を改善

キャッシュ創出

過去最高194億円のキャッシュを創出

	FY2019	FY2020	前年度比
営業キャッシュフロー	79億円	194億円	+115億円

有利子負債の削減

コロナ禍でも財務指標が大きく改善

	FY2019	FY2020	前年度比
有利子負債	574億円	530億円	△44億円
D/Eレシオ	0.91倍	0.76倍	△0.15倍

■ 増益、公表値達成、配当上積み

	FY2019	FY2020 (単位：百万円)			
		通期実績	前年度比	%	1月29日 公表値
売上高	138,916	137,247	△1,669	△1%	130,000
売上総利益 (売上総利益率)	72,632 (52.3%)	67,895 (49.5%)	△4,737		
販管費	67,251	61,301	△5,950		
営業利益 (営業利益率)	5,381 (3.9%)	6,593 (4.8%)	1,212	+23%	4,000 (3.1%)
営業外損益	△2,486	△1,006	1,480		
経常利益	2,895	5,587	2,692	+93%	2,000
特別損益	17	△667	△684		
税引前利益	2,912	4,919	2,007		
純利益	935	2,376	1,440	+154%	500
ROE	1.4%	3.6%			1%
年間配当	24円	10円			5円
配当性向	271%	44%			
為替換算レート (期中平均)	USD 109.10円	106.17円	△2.93円		(4Q前提) レート) 105円
	EUR 121.14円	123.73円	+2.59円		123円

FY2020 事業別実績

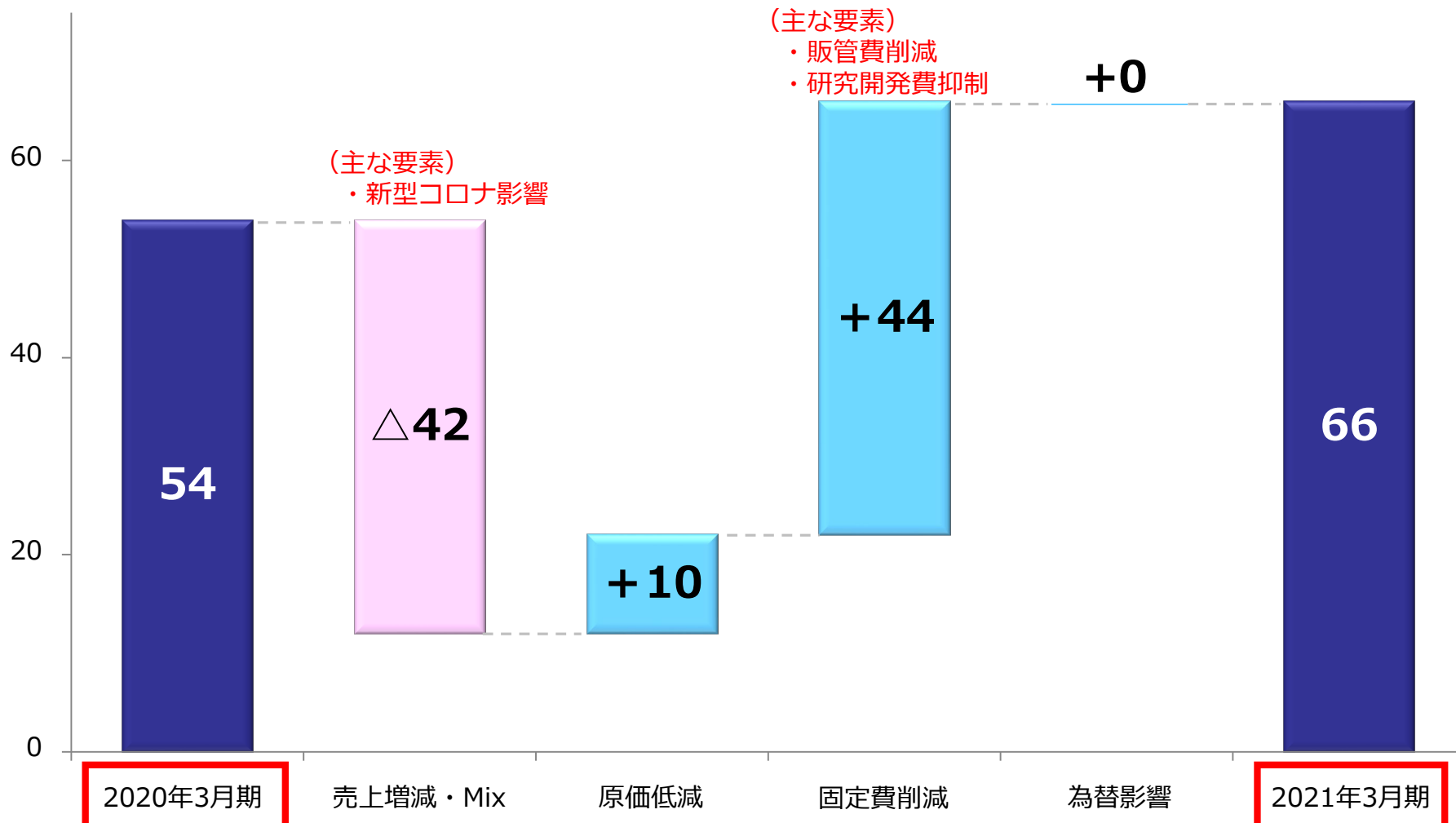
- Q4単独で全事業増収
- ポジショニング・スマートインフラが利益を牽引

		Q4単独実績			通期実績 (単位：百万円)			
		FY2019	FY2020	前同比%	FY2019	FY2020	前年度比	%
売上高	ポジショニング	21,443	22,357	+4%	73,989	71,416	△2,573	△3%
	スマートインフラ	9,689	10,179	+5%	33,398	33,982	584	+2%
	アイケア	10,815	15,275	+41%	44,758	44,251	△507	△1%
	その他	279	329	+18%	1,319	1,165	△154	△12%
	消去	△4,037	△3,881		△14,549	△13,568	981	
	合計	38,191	44,257	+16%	138,916	137,247	△1,669	△1%
営業利益 (営業利益率)	ポジショニング	2,121 (9.9%)	2,978 (13.3%)	+40%	4,537 (6.1%)	6,064 (8.5%)	1,527	+34%
	スマートインフラ	2,042 (21.1%)	2,029 (19.9%)	△1%	5,027 (15.1%)	4,972 (14.6%)	△55	△1%
	アイケア	△734 (△6.8%)	1,332 (8.7%)	黒字化	136 (0.3%)	122 (0.3%)	△14	△10%
	その他	△51 (△18.3%)	△196 (△59.6%)	-	△144 (△10.9%)	△536 (△46.0%)	△392	-
	調整	△1,058	△1,005		△4,175	△4,028	147	
	合計	2,319 (6.1%)	5,138 (11.6%)	+122%	5,381 (3.9%)	6,593 (4.8%)	1,212	+23%

FY2020 増減益分析 (営業利益ベース:前年度比)

年間

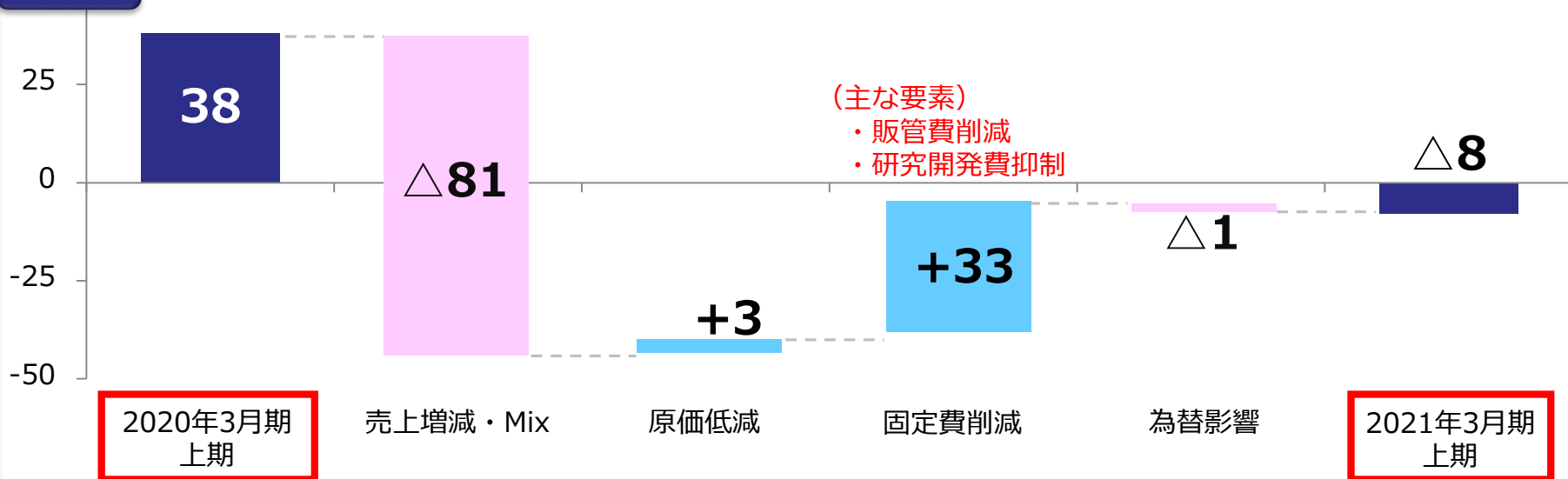
(単位:億円)



FY2020 増減益分析 上期/下期ブレイクダウン

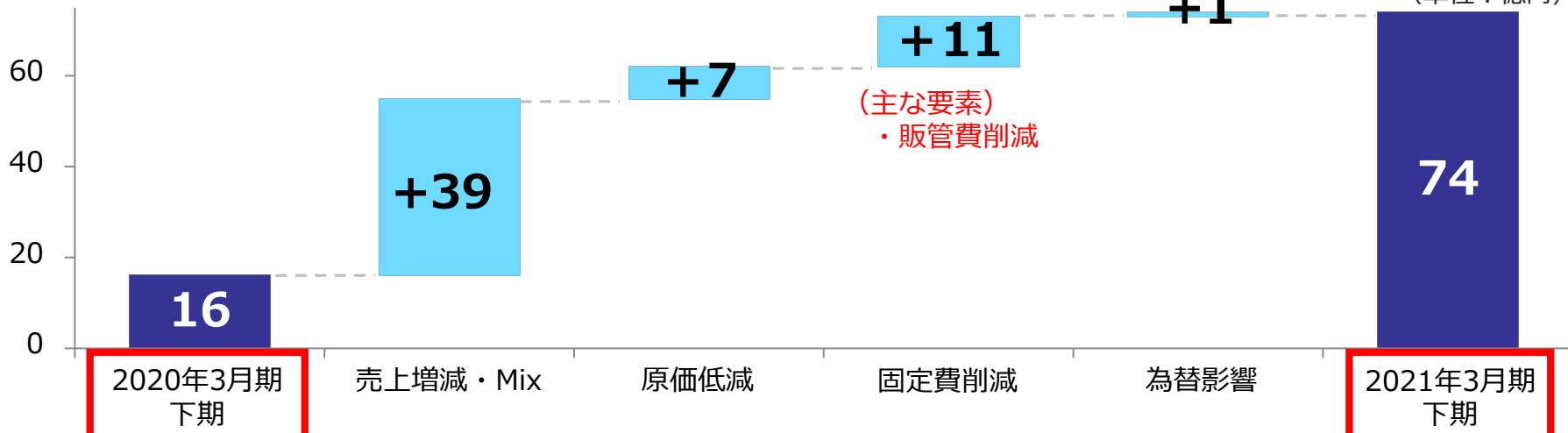
上期 : コロナ影響による減収・減益

(単位: 億円)



下期 : 増収・増益 エssenシャルビジネスの強みを証明

(単位: 億円)



I . 2021年3月期 決算報告

I-1. 2021年3月期 決算報告

I-2. 事業別の状況

■ 通期減収も大幅増益

(単位：百万円)

	FY2019	FY2020					
		通期実績	実績		通期	前年度比	%
			上期	下期			
売上高	73,989	32,141	39,276	71,416	△2,573	△3%	
営業利益 (営業利益率)	4,537 (6.1%)	2,157 (6.7%)	3,907 (9.9%)	6,064 (8.5%)	1,527	+34%	
為替 換算レート (期中平均)	USD 109.10 円	106.68 円	105.60 円	106.17 円	△2.93 円		
	EUR 121.14 円	121.36 円	126.15 円	123.73 円	+2.59 円		

■ FY2020業績要因分析

・全般

- エッセンシャルビジネスの強みと欧米市場での堅確な需要によりQ2以降挽回、売上は若干減収も経費抑制効果で大幅増益を達成

・ICT自動化施工

- アフターマーケット：Q3で前年比プラス転換後、堅調持続
- OEM：Q3以降大幅改善、通期で前年並みまで回復

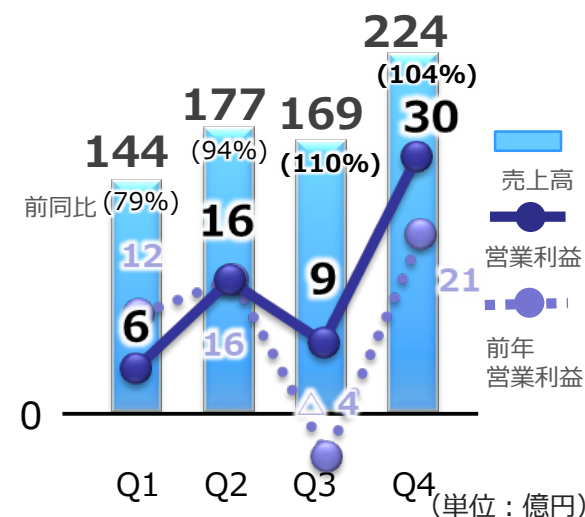
・IT農業

- アフターマーケット：穀物価格の上昇を背景に農家の投資意欲回復で大幅増収
- OEM：Q3以降回復基調

・測量・レーザー

- コロナ移住需要で欧米住宅建設市場が活況

四半期別売上高・損益推移



■ 売上・利益とも前年水準を確保

(単位：百万円)

	FY2019	FY2020					
		通期実績	実績		通期	前年度比	%
			上期	下期			
売上高	33,398	14,886	19,096	33,982	584	+2%	
営業利益 (営業利益率)	5,027 (15.1%)	1,777 (11.9%)	3,195 (16.7%)	4,972 (14.6%)	△55	△1%	
為替 換算レート (期中平均)	USD 109.10 円	106.68 円	105.60 円	106.17 円	△2.93 円		
	EUR 121.14 円	121.36 円	126.15 円	123.73 円	+2.59 円		

■ FY2020業績要因分析

・ 全般

- コロナ影響が限定的な国内販売が全体を牽引
- 東南アジアは底打ち感も回復ペース緩慢

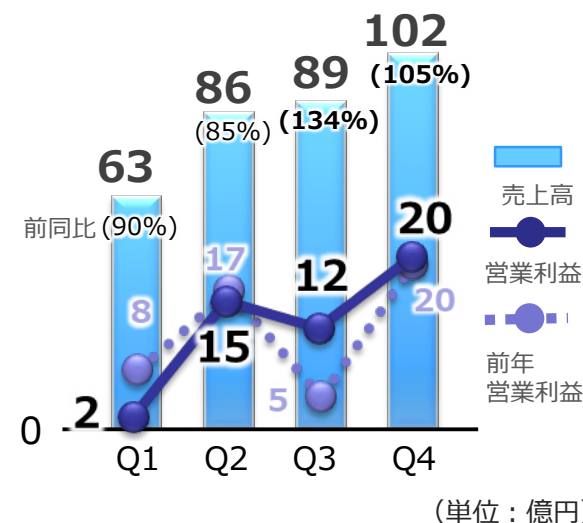
・ 国内

- i-Construction：コロナ下でも前年並み売上を持続、3D計測機「杭ナビ」の販売好調
- IT農業：補助金効果で自動化需要拡大、販売大幅伸長

・ 欧米

- 欧米向けレーザー販売好調

四半期別売上高・損益推移



■ コロナと共生しQ3以降急回復、通期黒字確保

(単位：百万円)

	FY2019	FY2020				
		実績		通期	前年度比	%
		上期	下期			
通期実績						
売上高	44,758	16,785	27,466	44,251	△507	△1%
営業利益 (営業利益率)	136 (0.3%)	△2,388 (△14.2%)	2,509 (9.1%)	122 (0.3%)	△14	△10%
為替 換算レート (期中平均)	USD 109.10 円	106.68 円	105.60 円	106.17 円	△2.93 円	
	EUR 121.14 円	121.36 円	126.15 円	123.73 円	+2.59 円	

■ FY2020業績要因分析

・ 全般

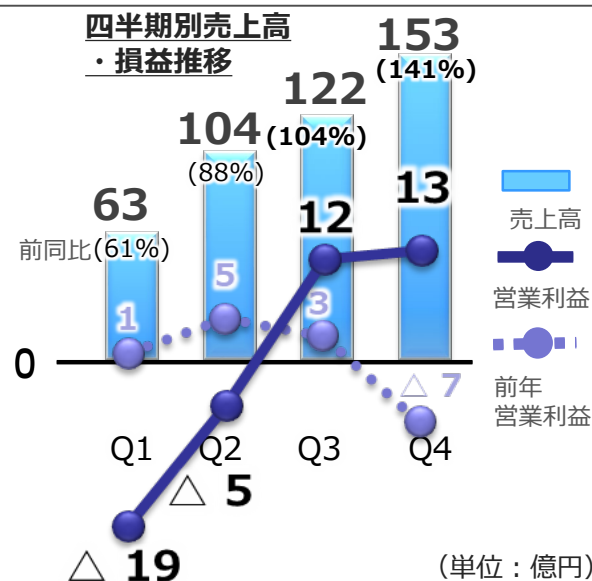
- 上期の甚大なコロナ影響から脱し急回復
- 売上は**Q3、Q4で過去最高**、通期黒字を確保

・ 欧米

- 検眼システム：リモート対応により販売急伸
- スクリーニングビジネス：大手眼鏡チェーン店からの需要は回復、OCT販売伸長

・ 中国

- 市場は正常化、販売網再編効果で通期大幅増収



Ⅱ. 2022年3月期 通期見通し

Ⅱ-1. 第三次中期経営計画への影響

Ⅱ-2. 2022年3月期 通期見通し

Ⅱ-3. 事業別注力事項

第三次中期経営計画への影響

再掲

FY2019 決算発表時メッセージ

(2020年5月21日)

■ 第三次中期経営計画 (2019年度 - 2021年度)

経営
ビジョン

医・食・住の成長市場において
社会的課題を解決し事業を拡大する

- ・ 時間軸への影響は不可避もビジョンは不変
- ・ 成長シナリオに追い風

FY2020 実績

- ・ エssenシャルビジネスの強みを証明
- ・ 経営ビジョンは不変
- ・ 時間軸の影響は不可避

2020年度実績を踏まえ
第三次中期計画期間の見直し

時間軸のみ変更

期間を1年延長、計画値は据え置く

2019年度 ~ (2021年度) → 2022年度

Ⅱ. 2022年3月期 通期見通し

Ⅱ-1. 第三次中期経営計画への影響

Ⅱ-2. 2022年3月期 通期見通し

Ⅱ-3. 事業別注力事項

今後の事業見通し

■ マクロ環境の見通し

エッセンシャルビジネスである建設・農業関連の需要は旺盛なインフラ投資・穀物相場の活況から底堅い成長が期待できる。一方、コロナワクチン接種遅延、感染再拡大に伴う行動制限や半導体不足による影響で先行き不透明な状況が続く。

■ 事業環境の見通し

ポジショニング

- ・好調を持続する米国住宅市場に加え、インフラ投資(8年間で2兆ドル)も追い風
- ・欧州は新型コロナ影響の長期化が懸念されるが、建設業への影響は引き続き限定的
- ・穀物価格の上昇を背景に農家の設備投資意欲は高まる

スマートインフラ

- ・国土強靱化計画、i-Construction適用工事増加が追い風
- ・国内農業では、補助金効果で拡大した自動操舵システムの需要が底堅く継続する見通し
- ・アジアはコロナ影響からの緩やかな回復を見込む

アイケア

- ・コロナ感染再拡大に伴う行動制限の影響による不透明感継続
- ・ソーシャルディスタンス対応のリモート検眼システム需要が継続
- ・中国市場の更なる拡大

■ 成長に向けた投資

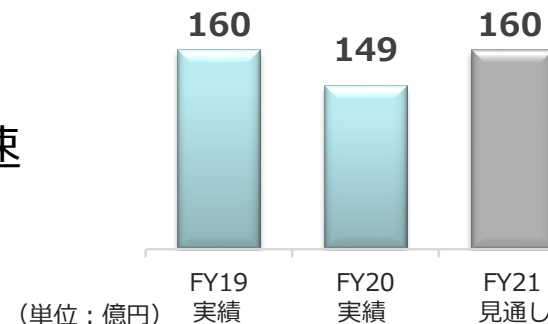
コロナ収束後の成長を見据えた戦略投資の実行

事業推進力の強化

- ・ ICT自動化施工・IT農業の需要拡大に対応した営業人員増強
- ・ 建築DXビジネス推進のためのリクルート
- ・ スクリーニングビジネス加速に向けたマネタイズモデル強化

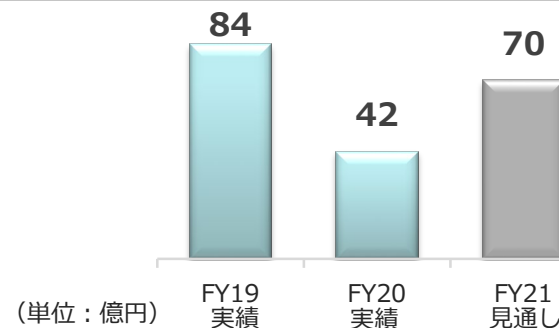
研究開発投資

- ・ コロナ収束後の成長を見据えた研究開発投資の再加速
ポジショニング・スマートインフラの
次期戦略的製品投入に向け開発スピードを加速



設備投資

- ・ 欧州生産拠点の新工場建設 (ポジショニング)
- ・ 米国テストサイトの移転・拡充 (ポジショニング)
- ・ 欧州におけるロジスティクス強化 (アイケア)



■ 増収・増益・増配

(単位：百万円)

	FY2020	FY2021		
	通期実績	通期計画	前年度比	
売上高	137,247	149,000	+9%	
営業利益 (営業利益率)	6,593 (4.8%)	10,000 (6.7%)	+52%	
経常利益	5,587	8,000	+43%	
純利益	2,376	5,000	+110%	
ROE	3.6%	7%		
配当	10円	20円		
配当性向	44%	42%		
為替換算レート (期中平均)	USD EUR	106.17円 123.73円	108.00円 128.00円	

FY2021 通期計画 (事業別)

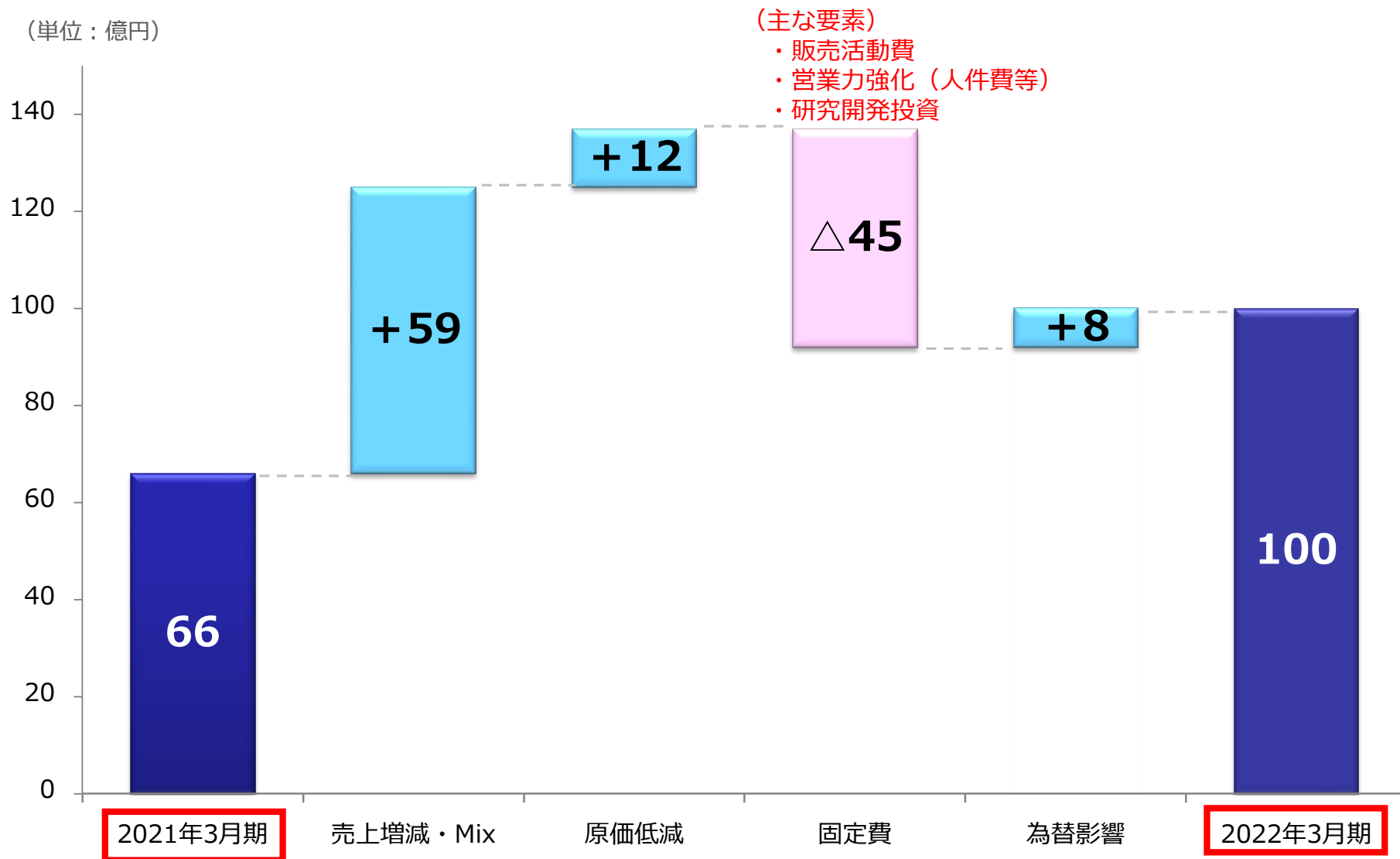
■ 全事業増収・増益

(単位：百万円)

		FY2020	FY2021	
		通期実績	通期計画	前年度比
売上高	ポジショニング	71,416	78,000	+9%
	スマートインフラ	33,982	36,000	+6%
	アイケア	44,251	50,000	+13%
	その他	1,165	1,000	△14%
	消去	△13,568	△16,000	
	合計	137,247	149,000	+9%
営業利益 (営業利益率)	ポジショニング	6,064 (8.5%)	7,000 (9.0%)	+15%
	スマートインフラ	4,972 (14.6%)	5,000 (13.9%)	+1%
	アイケア	122 (0.3%)	2,500 (5.0%)	+1,949%
	その他	△536 (△46.0%)	△300 (△30.0%)	-
	調整	△4,028	△4,200	
	合計	6,593 (4.8%)	10,000 (6.7%)	+52%

FY2021 増減益分析 (営業利益ベース:前年度比)

(単位: 億円)



Ⅱ. 2022年3月期 通期見通し

Ⅱ-1. 第三次中期経営計画への影響

Ⅱ-2. 2022年3月期 通期見通し

Ⅱ-3. 事業別注力事項

■ エssenシャルビジネスとしての堅確な需要

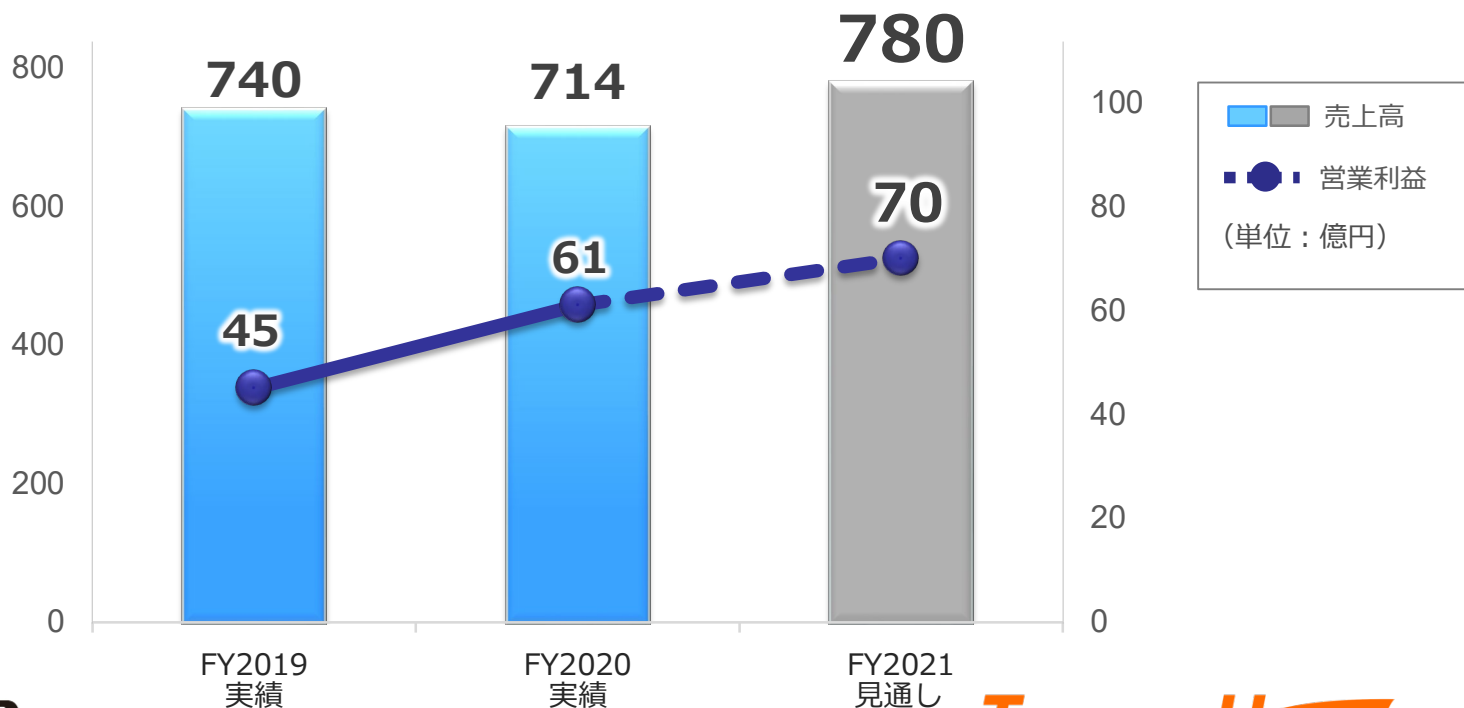
- 建設：一時的なコロナ影響を脱し正常なサイクルへ回帰
- 農業：高水準の穀物価格を背景に市場のセンチメント上昇

■ 経済復興のためのインフラ投資増を新たな商機に

- ICT自動化施工：新規需要の積極的な取り込み

■ 2022年度を見据えた営業力強化への投資

- ICT自動化施工・IT農業の需要拡大に対応する販売体制整備



- 建設：一時的なコロナ影響を脱し正常なサイクルへ回帰
- 農業：高水準の穀物価格を背景に市場のセンチメント上昇

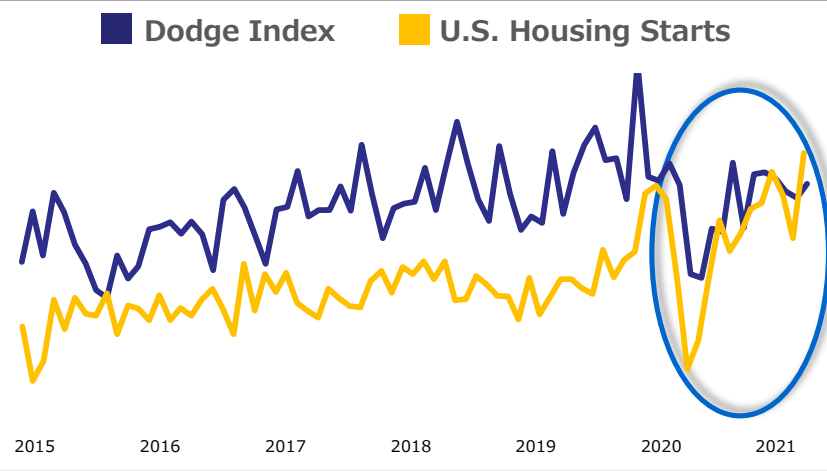
建設市場



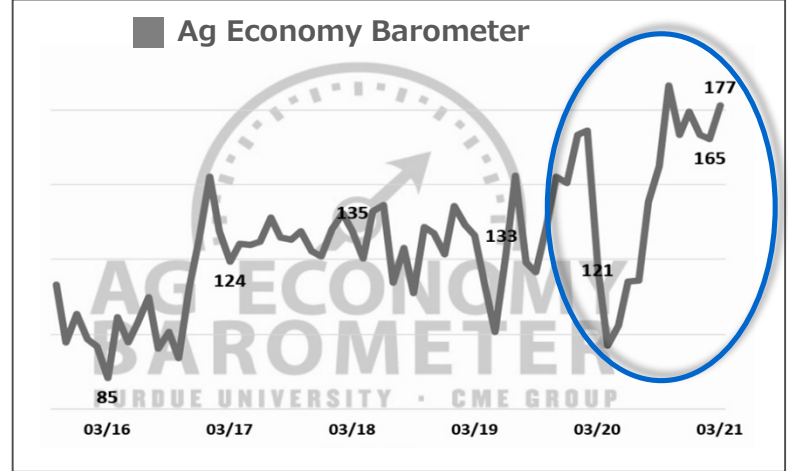
農業市場



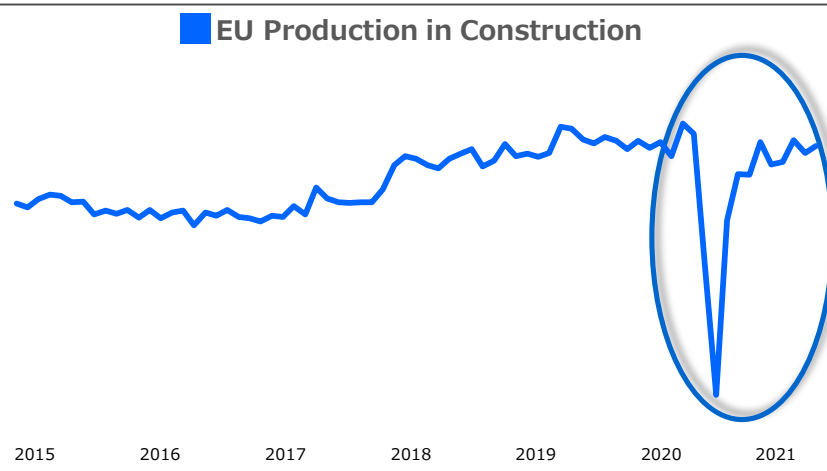
米国



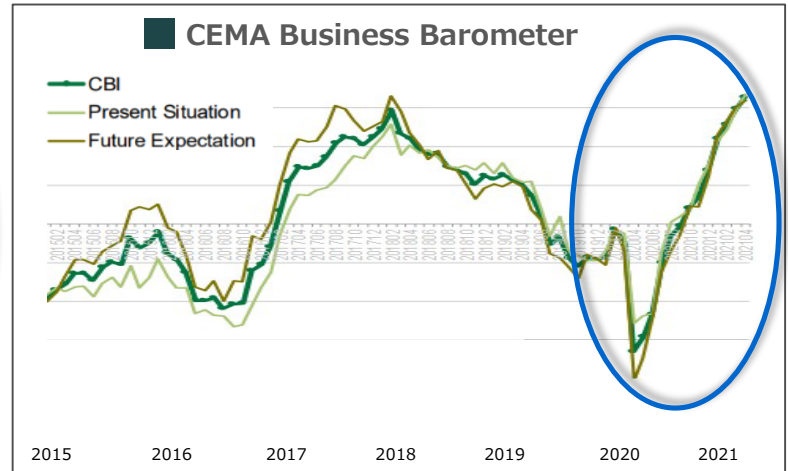
Ag Economy Barometer



欧州



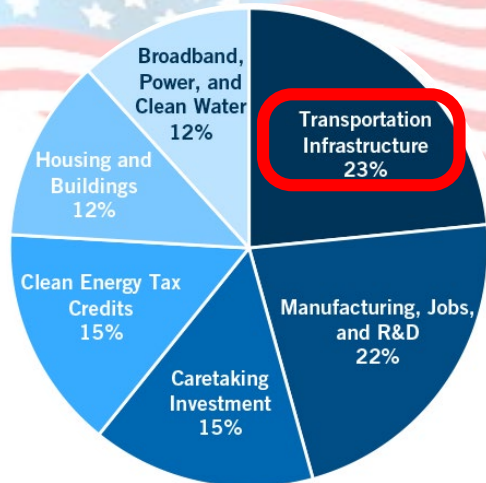
CEMA Business Barometer



■ ICT自動化施工：新規需要の積極的な取り込み

米国インフラ投資施策

American Jobs Plan (予算規模：総額 2兆ドル超)



道路・橋等の老朽インフラ整備で
公共工事の増加に期待

出典：<https://www.pgpf.org/blog/2021/04/what%E2%80%99s-in-bidens-infrastructure-plan-and-how-he-proposes-paying-for-it>



ICT自動化施工の導入により
生産性向上と省力化を実現



道路工事現場におけるICT活用事例

■ ICT自動化施工：戦略的新製品投入で販売伸長

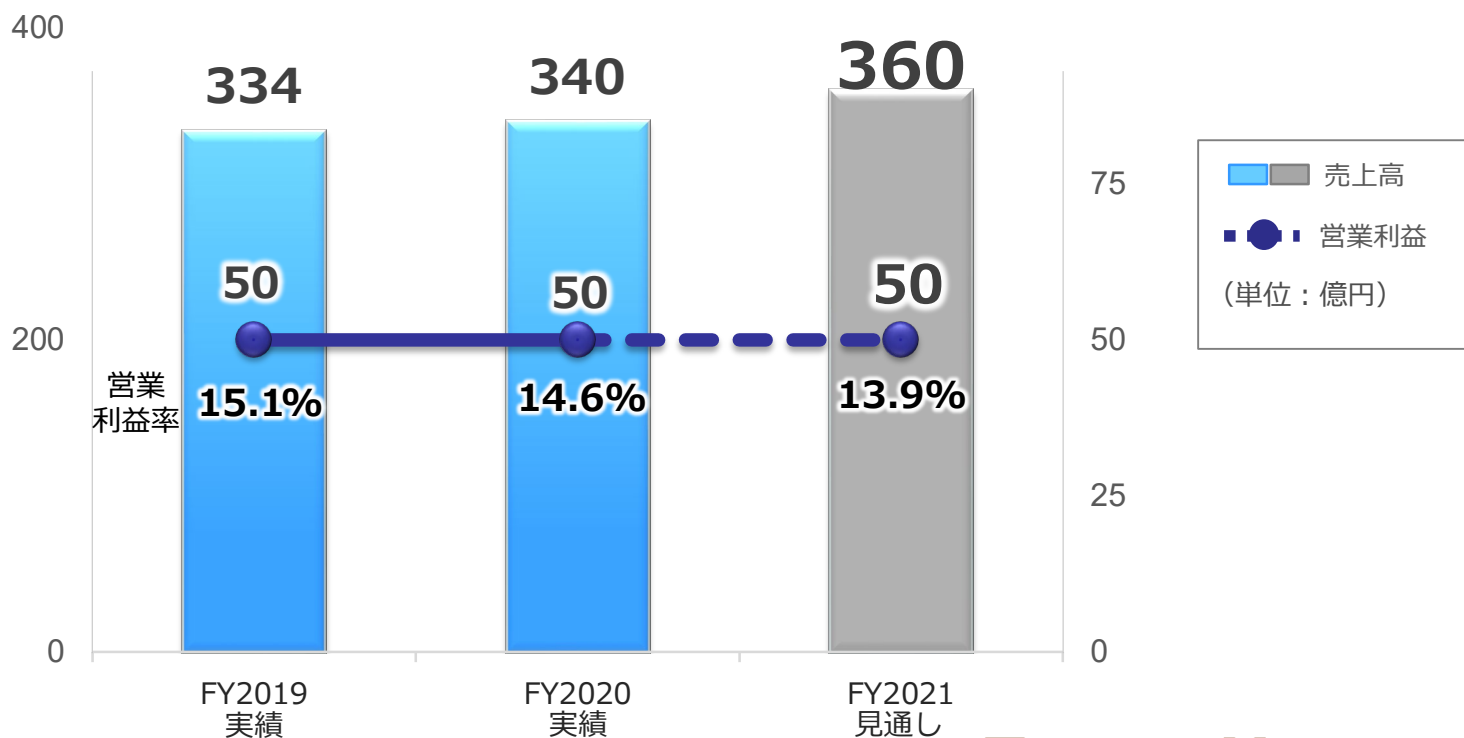
-世界初：小型ショベルを容易にICT化する画期的システム

■ 国内IT農業：普及加速および販売網拡充

-コロナで需要拡大に追い風

■ 建築DXビジネス拡充への投資強化

-「建築工事のDX」を新たな事業の柱に！



■ 世界初：小型ショベルを容易にICT化する画期的システム



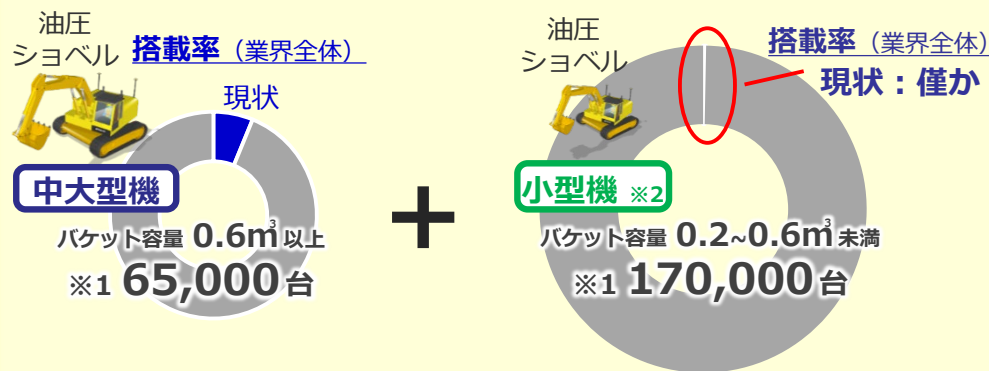
✓ 小型ショベルに**適した価格の**
3Dマシンガイダンスシステムで
ICT化を促進

✓ 現場で広く普及している
「杭ナビ」を
位置情報センサーに活用

国内油圧ショベル市場

小型機はICT搭載率が低く成長余地が大きい

市場規模と搭載率(当社推定)

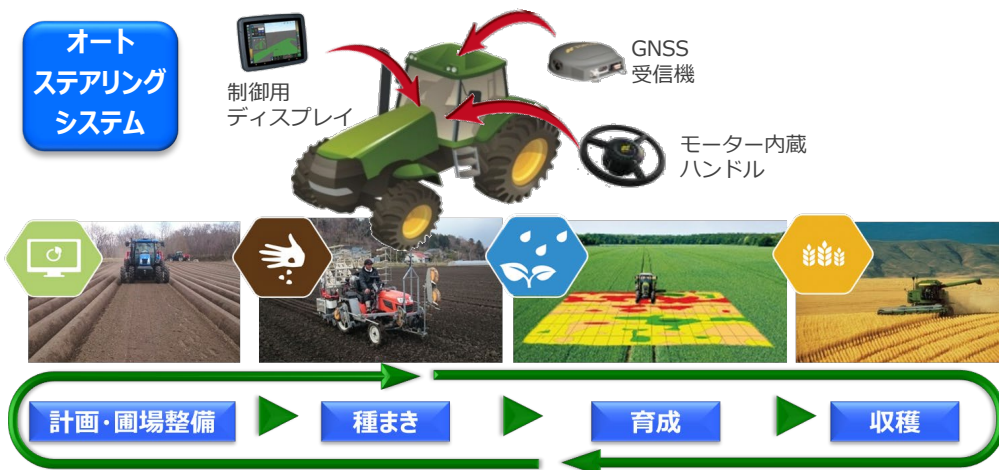


(※1: 主要建設機械保有台数: 国土交通省出典)

※2: 0.2m³未満のミニショベルは含まず

海外展開も目指す

■ コロナで需要拡大に追い風



追い風要素

- ・省人化ニーズ
- ・補助金制度
- ・自治体取組み（GNSS基地局整備）

当社の取組み

■ 普及が進んでいない本州エリアにも販売網を拡大
 （現状北海道が全出荷台数の9割を占める）

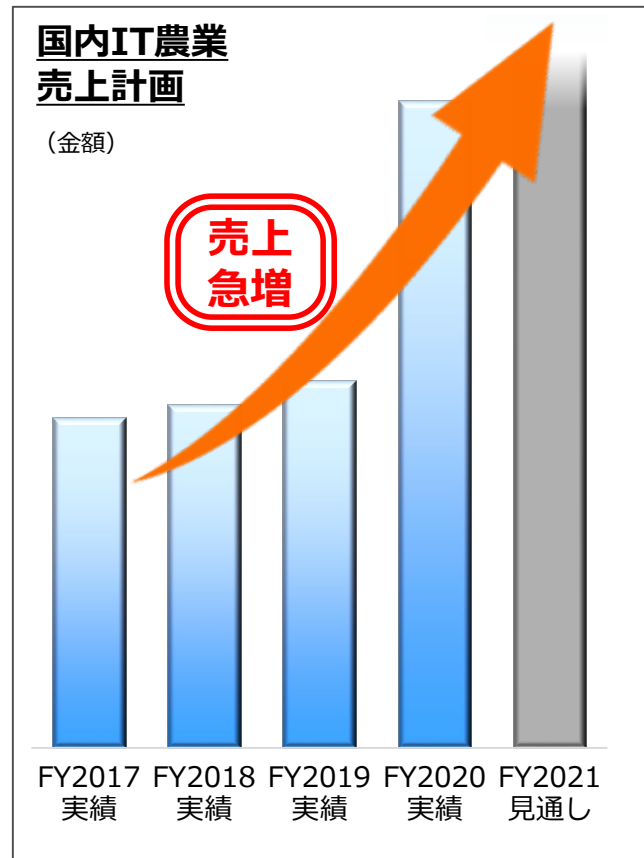
オートステアリングシステム全メーカー 累計出荷台数（令和元年時点）

北海道 8,110台

本州 1,000台

潜在需要大

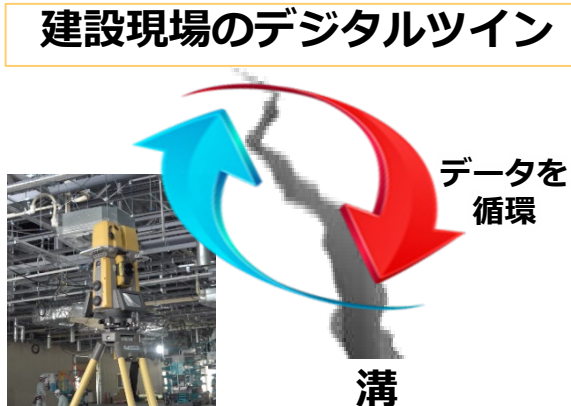
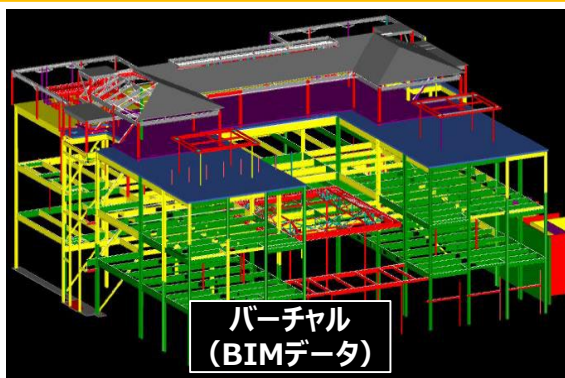
出典：北海道農政生産振興局技術普及課ホームページ
http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ns/gjf/GPS_GuidanceSystem/GPS_GuidanceSystem_introduction_results-2020.pdf



国内IT農業市場は急速に拡大
 追い風要素を積極的に取り込む

■「建築工事のDX」を新たな事業の柱に！

バーチャルとリアルの溝を埋めるため位置データで紐づけ循環させる



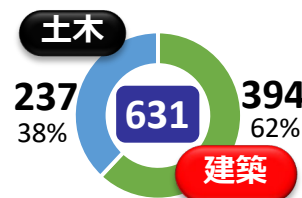
現場の3次元データ化

省人化、施工品質、生産性の向上を実現

投資内容

- ・ビジネス推進人員増強
- ・建築向け製品のラインアップ強化

土木と比べ
建築分野の
市場規模は
約2倍



日本の建設投資額



世界の建設投資額

出典：国家統計局「中国統計年鑑2020」から集計し、1USD = 6.57円で換算
 アメリカ商務省統計局「Construction Spending」から集計
 欧州建設業連盟FIEC「KEY FIGURES 2019」から集計し、1USD = €0.82で換算
 国交省「令和2年度（2020年度）建設投資見通し」から集計し、1USD = ¥103.6で換算

■ リモート検眼システムの更なる拡販

-ソーシャルディスタンス対応でリモート検眼ニーズ継続

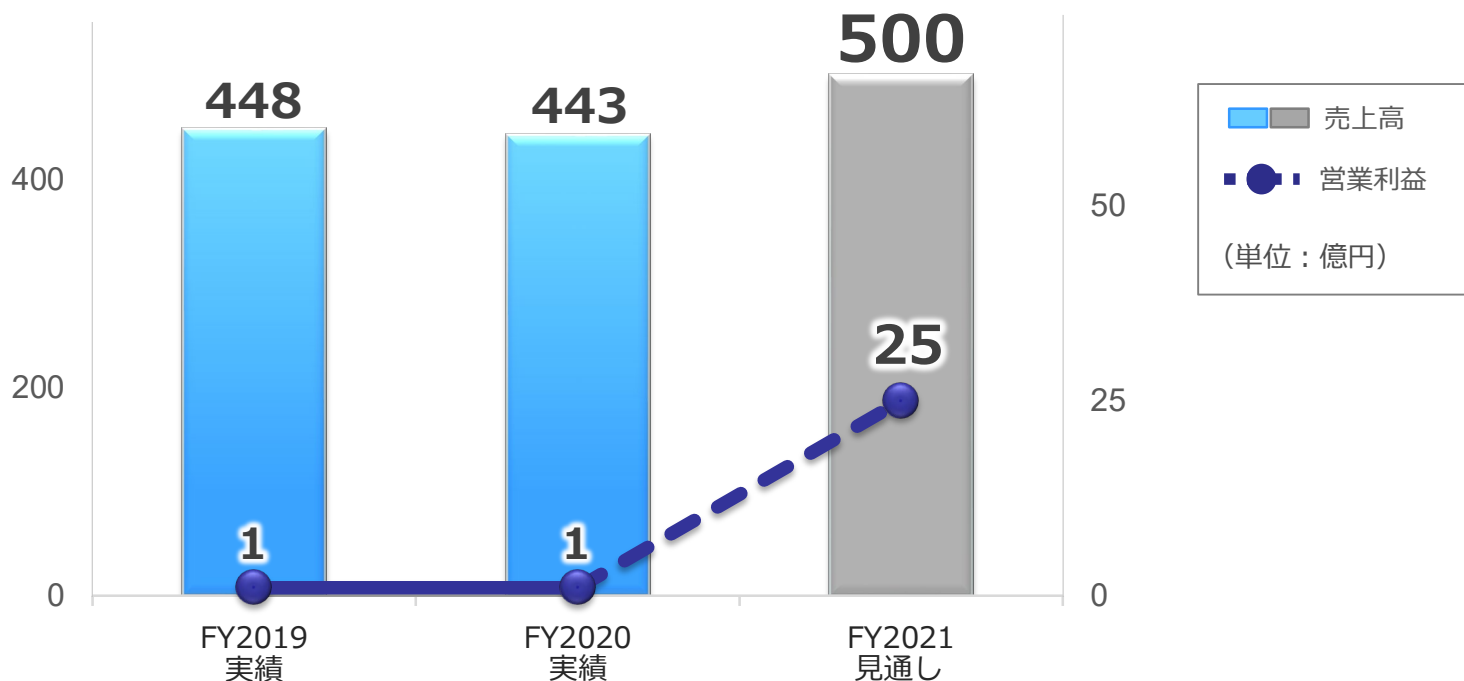
■ Maestroの更なる拡販

-スクリーニング向けが成長を牽引

■ 中国ビジネスの更なる拡大

-販売網拡充により市場カバレッジ拡大、売上伸長

-スクリーニングビジネス拡大



リモート検眼システムの更なる拡販

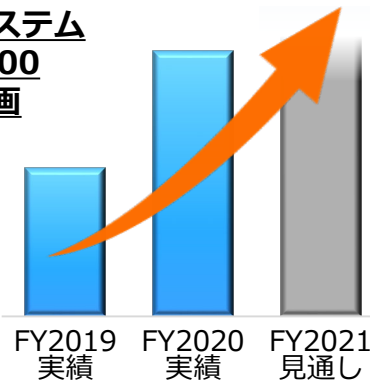
アイケア

■ ソーシャルディスタンス対応で

リモート検眼ニーズ継続

→ 新ニーズに当社ソリューションが完全に合致

検眼システム
CV-5000
売上計画
(金額)



従来の様式

対面検眼

患者と対面式
近距離検査

眼鏡店等



C



ニューノーマル (新常态)

リモート検眼



タブレットでシステムをリモート操作

※対応製品名：Topcon RDx (Topcon Healthcare Solution)により実現。
現在は米国のみ使用可能。

トプコンの
ソリューションで実現！

デジタル技術

+

検眼システム



CV-5000

・様々なレンズの入れ替えを電子制御し眼鏡の最適度数を決定する
検眼システム

※1 日本においては医師不在の眼鏡店等は対象外
※2 販売名「3次元眼底像撮影装置 3D OCT-1」

スクリーニング向けが成長を牽引

-当社独自のフルオート機能がスクリーニング用途に合致

➡ 欧米眼鏡店向け販売好調^{※1}

フルオート機能による
ワンタッチ操作

3DOCT-1 Maestro2
3D OPTICAL COHERENCE TOMOGRAPHY



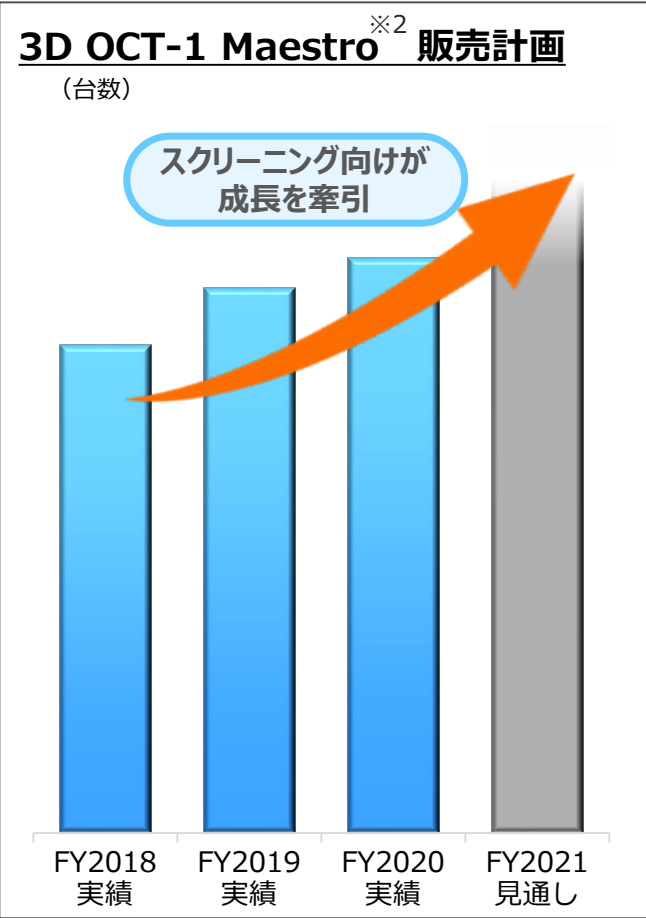
-ソーシャルディスタンス対応で

タブレットによるリモート操作可能^{※3}

➡ 新ニーズにも当社ソリューションが合致

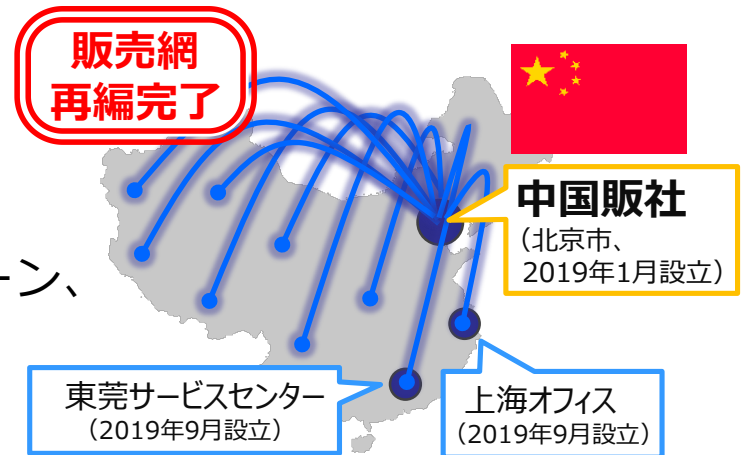


※3
リモート操作は、Type:Maestro2
でのみ可能
操作者が同じ施設内の操作室から
操作することを意図した機能
米国では、有線LANを介して接続し
たPCからのリモート操作のみ可能



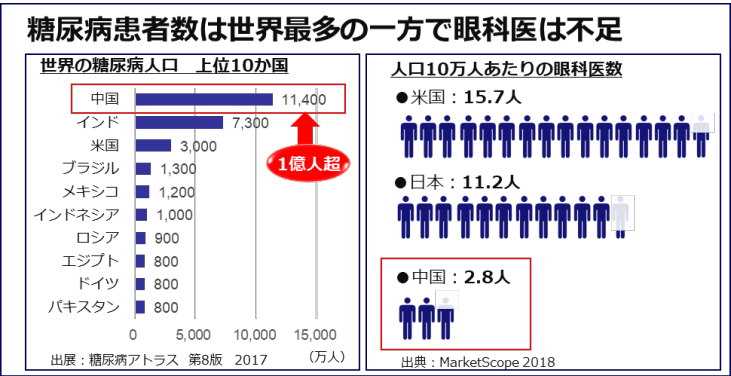
■ 販売網拡充により市場カバレッジ拡大、売上伸長

- ・ 複数代理店制と直販の強固なハイブリッド販売体制を構築
- ・ 公立病院、私立病院チェーン、大手検診チェーン、眼鏡店を攻略



■ スクリーニングビジネス拡大

中国市場の社会的課題



- ・ 大手検診グループやAI開発会社が続々と眼疾患等の疾病スクリーニング市場へ参入
- ・ 当社フルオート眼底カメラTRC-NW400販売伸長



Ⅲ. トピックス



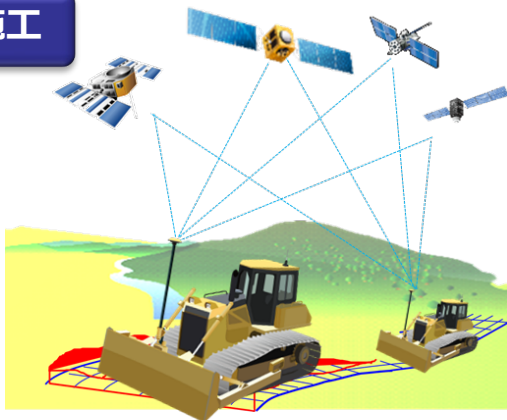
SDGsへの取組み：CO2排出量削減への貢献

■ 建機・農機の自動化システムそのものが環境負荷低減に貢献

ICT自動化施工



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



建機の自動化により
稼働時間を約3割※1低減

当社製品による
CO2排出削減量
(当社推定)

全世界

60万トン/年※2

※1：出典-国土交通省i-Construction
推進コンソーシアム
「i-Constructionの進捗状況」(2019)

https://www.mlit.go.jp/tec/i-construction/pdf/03.5_kikaku_siryu_u6.pdf

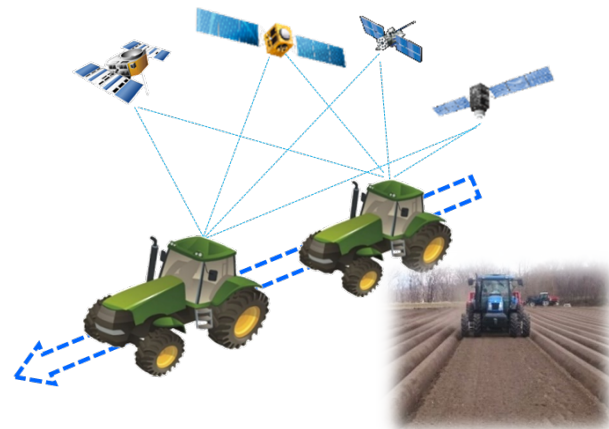
※2：算定根拠

建機1台あたりの年間CO2排出量推定値に、ICT施工の活用による作業時間想定削減率を乗じた建機1台あたりのCO2排出削減量をもとに、ICT自動化施工機器の全世界での推定稼働台数と当社推定シェアを乗じて計算

IT農業



9 産業と技術革新の基盤をつくろう



農機の自動操舵システムにより
稼働時間を約2割※3低減

当社製品による
CO2排出削減量
(当社推定)

全世界

50万トン/年※4

※3：出典-AEM 「The Environmental Benefits of Precision Agriculture in the United States」(2020)

<https://newsroom.aem.org/asset/977839/environmentalbenefitsofprecisionagriculture-2#.YBdQZR2Lc74.link>

※4：算定根拠

農業用トラクター1台あたりの年間CO2排出量推定値に、オートステアリングシステムの活用による燃料消費想定削減率を乗じた農機1台あたりのCO2排出削減量をもとに、オートステアリングシステムによる自動操舵トラクターの全世界での推定稼働台数と当社推定シェアを乗じて計算

バンダーニュートラルの強みにより
既存の各社建機・農機を後付けで自動化

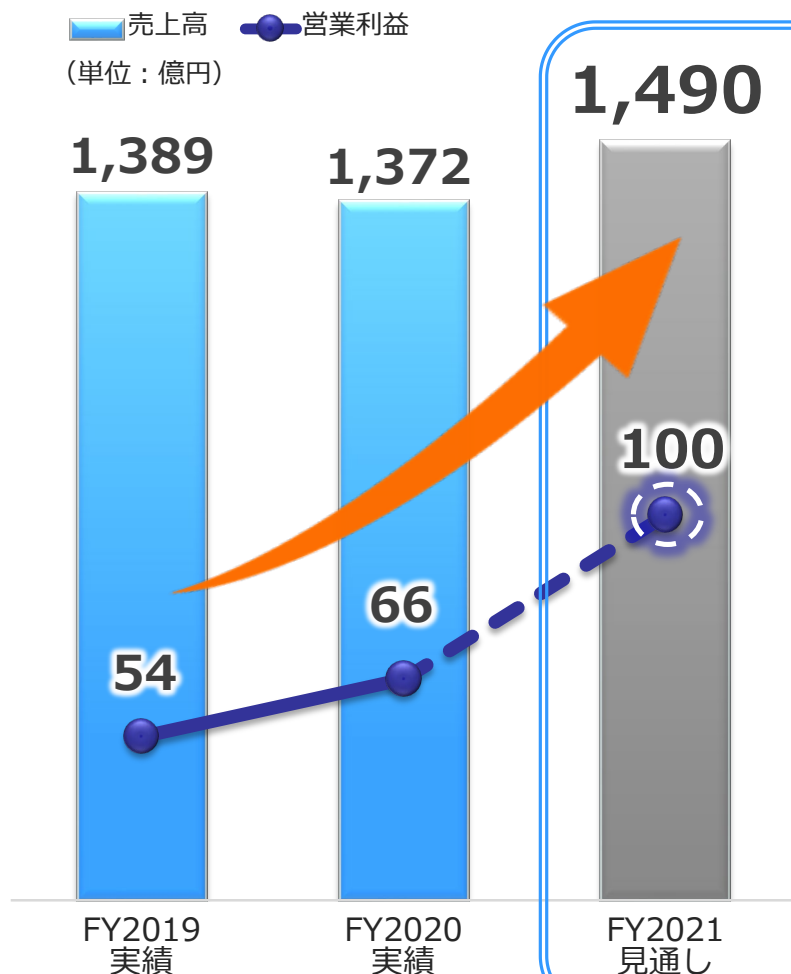
自動化の普及拡大で
更なるCO2削減が期待

※ i-Constructionは、国土交通省国土技術政策総合研究所の登録商標です。

©2021 Topcon Corporation

IV. まとめ

通期見通し：増収・増益・増配



増収・増益・増配

	見通し	前年度比
売上高	1,490億円	+9%
営業利益	100億円	+52%
経常利益	80億円	+43%
純利益	50億円	+110%
配当	見通し 20円	前年度 10円

【TOPCON WAY】

トプコンは「医・食・住」に関する社会的課題を解決し、豊かな社会づくりに貢献します。

住

Infrastructure

医

Healthcare

食

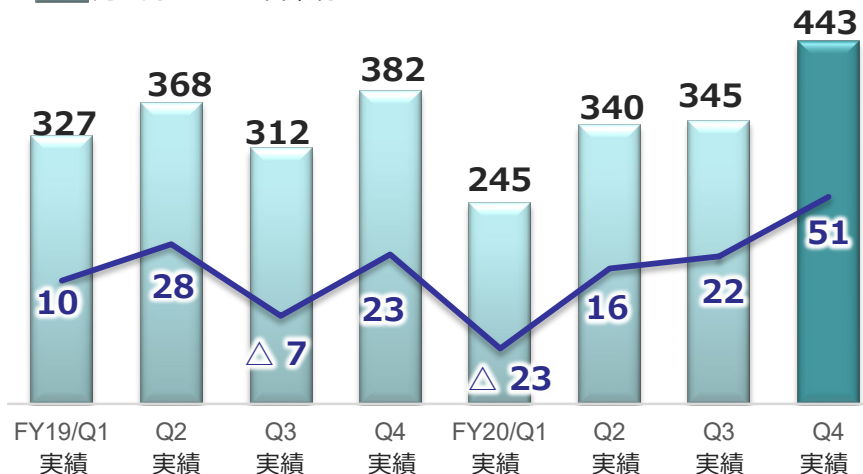
Agriculture

V. 参考資料

四半期別業績推移

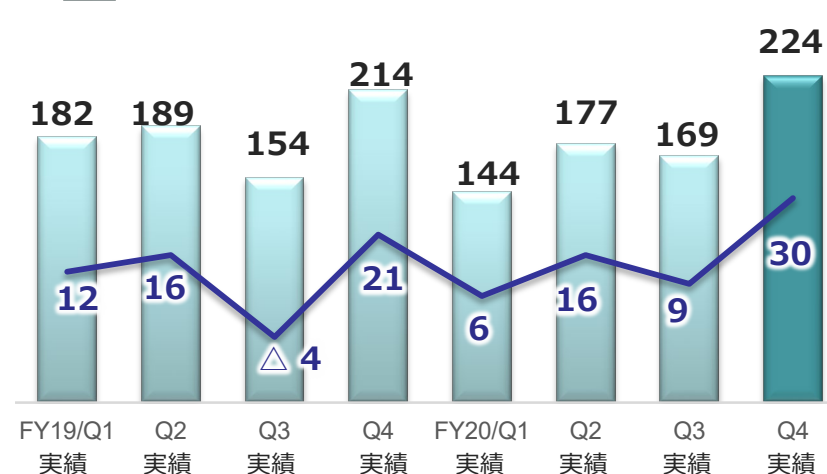
■ 全社

売上高 営業利益 (単位：億円)



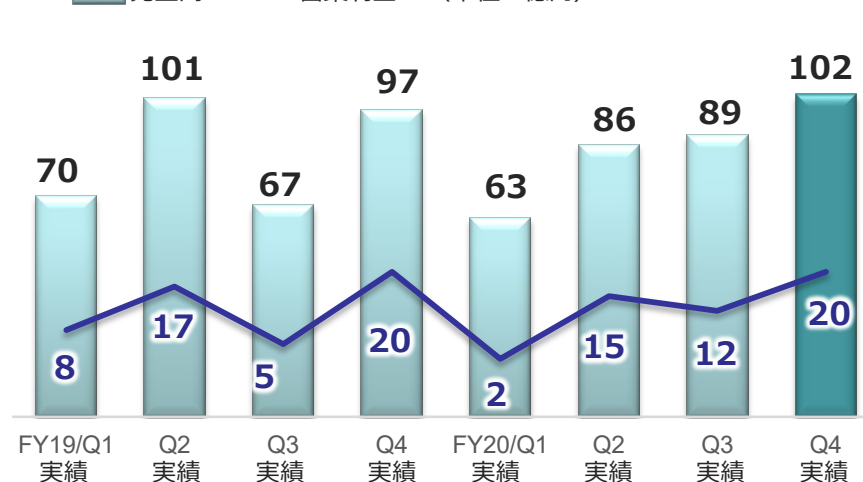
■ ポジショニング・カンパニー

売上高 営業利益 (単位：億円)



■ スマートインフラ・ビジネス

売上高 営業利益 (単位：億円)



■ アイケア・ビジネス

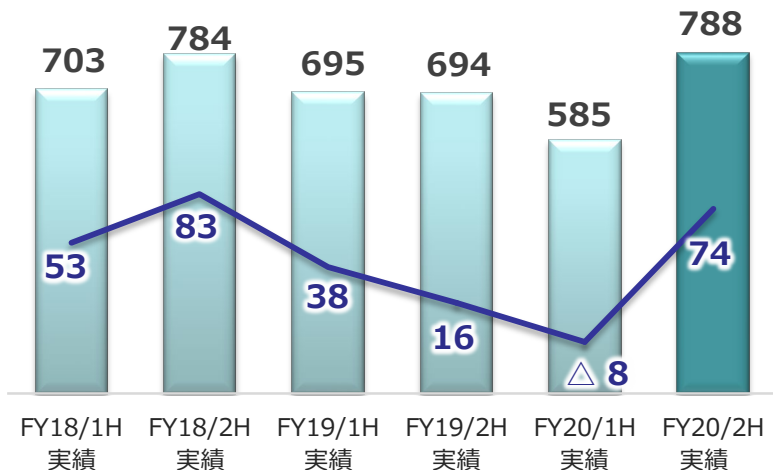
売上高 営業利益 (単位：億円)



半期別業績推移

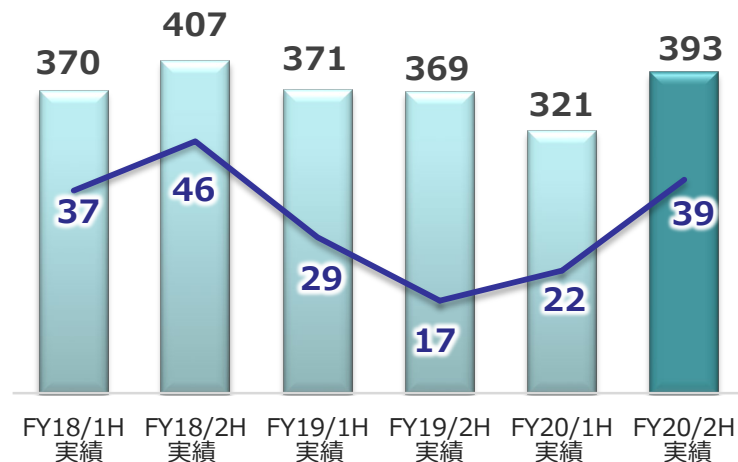
■ 全社

売上高 営業利益 (単位：億円)



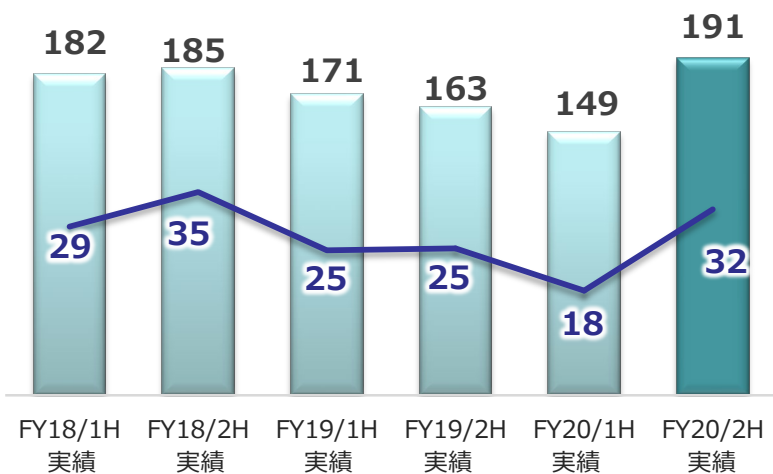
■ ポジショニング・カンパニー

売上高 営業利益 (単位：億円)



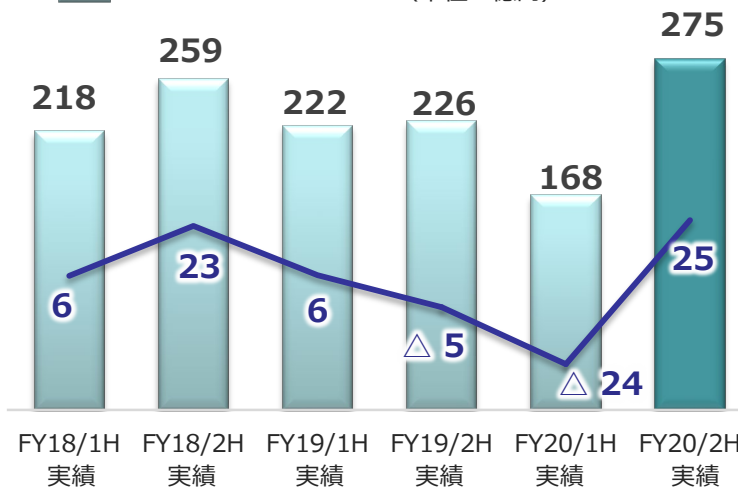
■ スマートインフラ・ビジネス

売上高 営業利益 (単位：億円)



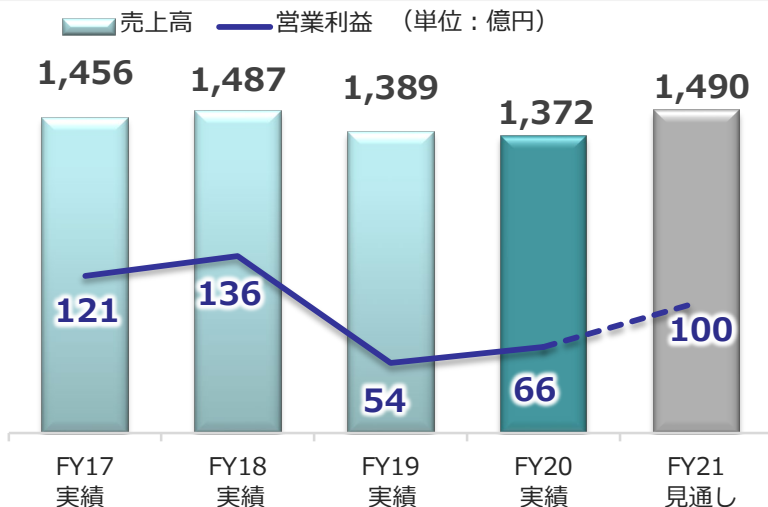
■ アイケア・ビジネス

売上高 営業利益 (単位：億円)

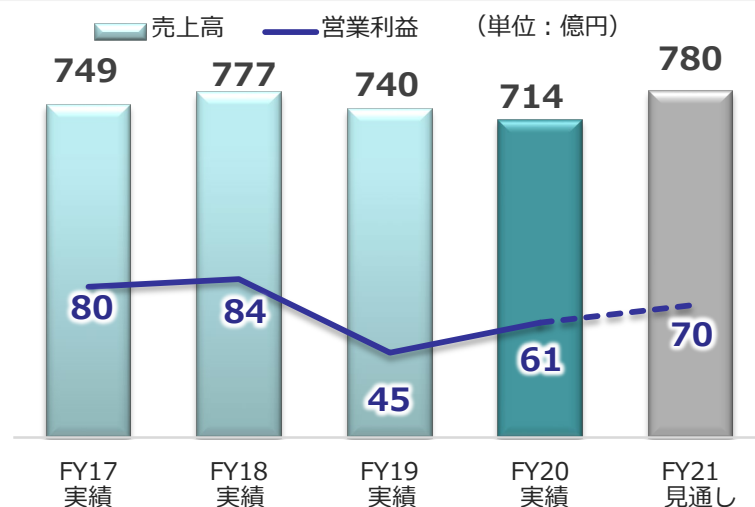


年間業績推移・見通し

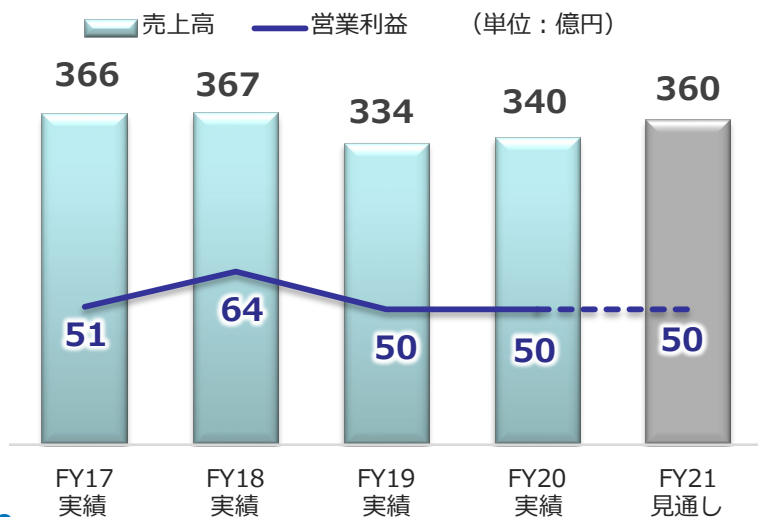
■ 全社



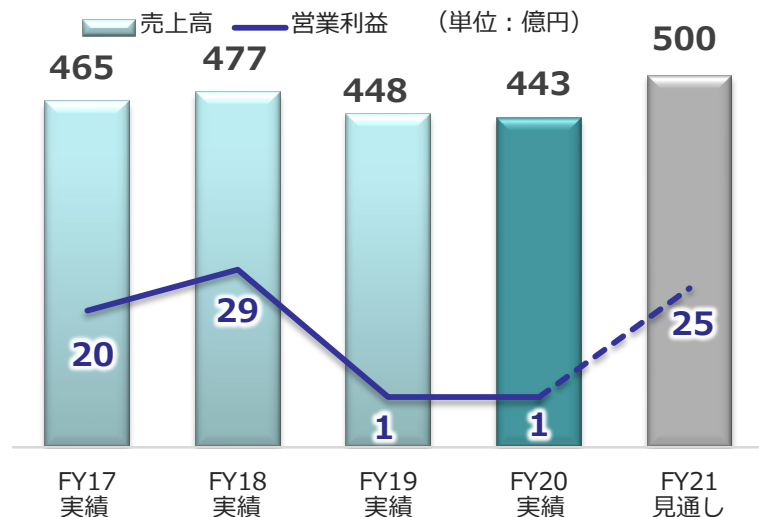
■ ポジショニング・カンパニー



■ スマートインフラ・ビジネス



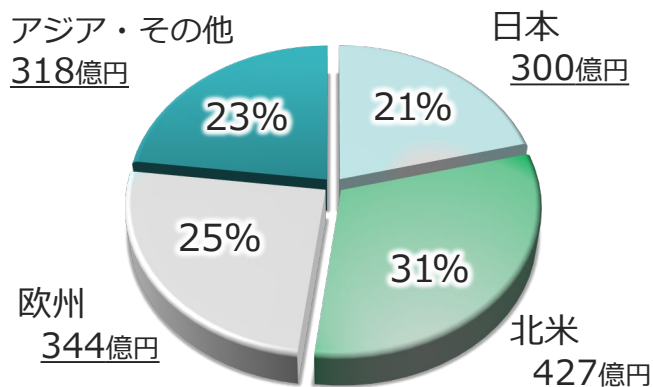
■ アイケア・ビジネス



地域別売上高

FY2019/通期

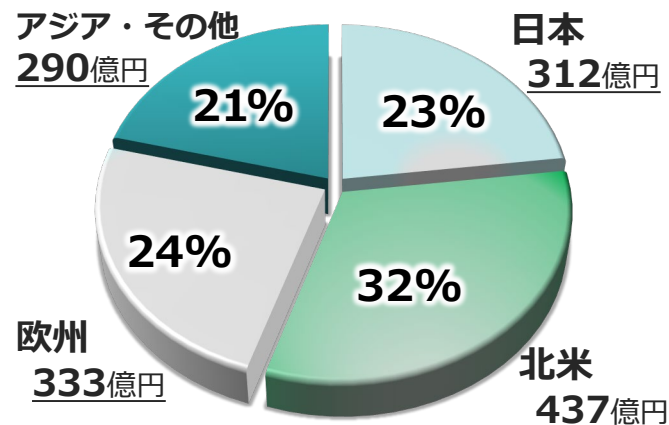
1,389億円



前年比
△1%

FY2020/通期

1,372億円

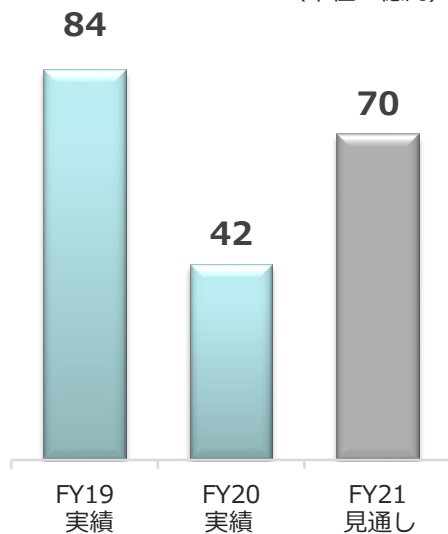


設備投資および研究開発費 / 為替感応度

■ 投資額・費用見通し

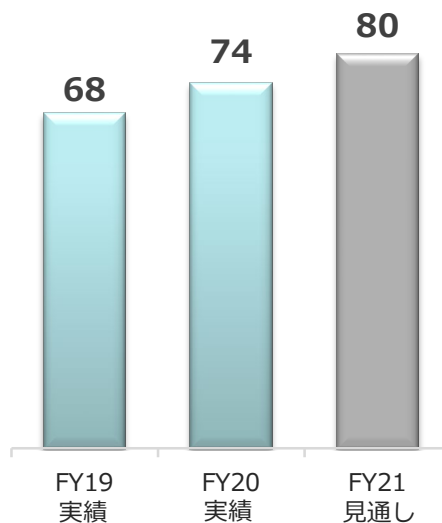
設備投資額

(単位：億円)



減価償却費*

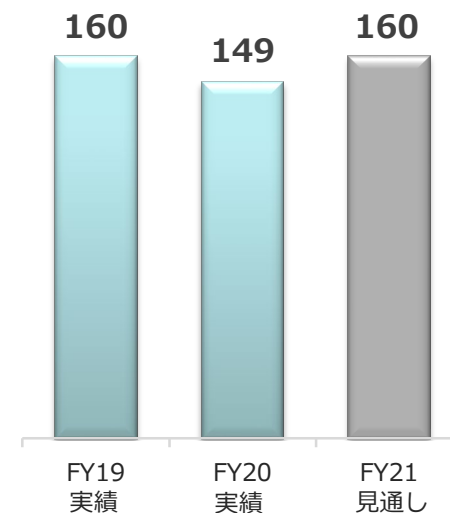
(単位：億円)



*のれん償却費を除く

研究開発費

(単位：億円)



■ 為替感応度（1円の変動による影響額）

USD：営業利益 1.5～2億円

EUR：営業利益 0.7～1億円



当資料取扱上のご注意

本資料に記載の業績見通し、並びに将来予測は、現在入手可能な情報に基づき、見通しのもとになる前提、予想を含んだ内容を記載しております。
実際の業績は、今後の事業領域を取りまく経済状況、市場の動向により、本資料の業績見通しとは異なる場合がございますので、ご承知おき頂きたくお願い致します。

お問い合わせ先

株式会社トプコン 広報・IR室

TEL : 03-3558-2532

E-mail: investor_info@topcon.co.jp

URL : <https://www.topcon.co.jp>